

2019年12月

第111号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

ダッチロールを繰り返す日韓関係

日韓関係が戦後最悪の状態に陥っている。

日韓関係は「歴史問題」という根強いお荷物を抱えながらも、戦後紆余曲折はあっても「安全保障」「経済協力」「人的交流」など様々な面で協力関係が築かれ着実に親しい隣国として良好な関係が築かれてきた。

1965年6月佐藤栄作政権と朴正熙政権との間で日韓基本条約が締結され両国の国交が正常化された。この条約と併せて「日韓請求権協定」が締結され日本が韓国に対して無償で3億ドル、有償で2億ドルの経済援助をすること、並びに「(それぞれの請求権を)完全かつ最終的に解決されたことを確認する」とした。

1998年10月小渕恵三首相と金大中大統領との間で、「日韓共同宣言」(21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ)を宣言。未来のあるべき両国関係をより緊密な友好協力関係をより高い次元に発展させ、21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップを構築するとするもの。

2015年12月安倍首相と朴槿恵大統領の間で、長年の懸案事項であった慰安婦問題を「最終的不可逆的な解決」に合意。安倍首相は改めて「心からのお詫びと反省の気持ち」を表明。韓国政府が設立した財団に日本政府予算で一括拠出。生存する慰安婦47名のうち34名がこの和解スキームを受け入れた。

しかし、2017年5月9日文在寅大統領が誕生すると、状況が一変した。

2018年10月30日には「旧朝鮮半島出身労働者」(いわゆる徴用工)問題で大法院(韓国最高裁)が徴用工4名に対して一人約1千万円の損害賠償を認めた。

日本政府は国家間の取り決めは「当事国の国内法を援用することはできない」とするウィーン条約27条により「主権免除」の立場に立っている。

2019年2月18日文喜相国会議長は「慰安婦問題解決には戦争犯罪者の息子・天皇(現上皇陛下)の謝罪が必要」と発言。12月20日「火器管制レーダー事件」発生。さらに日本製品不買運動にまで発展。訪日客も60%以上も減少している。

日本は2019年7月4日輸出管理強化措置として「韓国のホワイト国からの除外」を決定。

2019年8月22日韓国は日米韓三国の安全保障上重要なGSOMIA(日韓軍事情報包括保護協定)の破棄を発表。さらに、慰安婦問題の個別賠償に絡む裁判も審理されることが決定された。GSOMIAは米国の説得などにより11月23日期限切れ直前に条件付きで延長されることになったが諸懸案事項の交渉の推移によっては再び泥沼化に陥ることも予想され予断を許さない。

日本国民はこれまで度重なる合意事項の反故にあい、韓国政府に対する信頼関係に疑念を抱くようになってきている。隣国でもあり早急に「日韓共同宣言」の精神に立ち返り信頼関係構築のため胸襟を開いた話し合いを期待したい。

自分の主人となれ



ニーチェの言葉

勘違いしてはならない。自制心という言葉を知っているだけで、なにがしか自制できているわけではない。自制は、自分が現実に行うそのもののことだ。

一日に一つ、何か小さなことを断念する。最低でもそのくらいのことが容易にできないと、自制心があるということにはならない。また、小さな事柄に関して自制できないと、大きな事柄に関して上手に自制して成功できるはずもない。

自制できるということは、自分をコントロールできるということだ。

自分の中に巣くう欲望を自分で制御する、欲望の言いなりになったりせず、自分がちゃんと自分の行動の主人になる、ということだ。

『漂泊者とその影』

飽きるのは自分の成長が止まっているから

ニーチェの言葉

なかなか簡単には手に入らないようなものほど欲しくなるものだ。

しかし、いったん自分のものとなり、少しばかり時間がたつと、つまらないもののように感じ始める。それが物であっても人間であってもだ。

すでに手に入れて、慣れてしまったから飽きるのだ。けれどもそれは、本当は自分自身に飽きているということだ。手に入れたものが自分の中で変化しないから飽きる。すなわち、それに対する自分の心が変化しないから飽きるのだ。つまり、自分自身が成長し続けられない人ほど飽きやすいことになる。

そうではなく、人間として成長を続けている人は、自分が常に変わるのだから、同じものを持ち続けても少しも飽きないのだ。

『悦ばしき知識』

人間的な善と悪

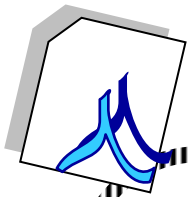
ニーチェの言葉

悪とは何か。人をはずかしめることだ。

最も人間的なこととは何か。どんな人にも恥ずかしい思いをさせないことだ。

そして、人が得る自由とは何か。どんな行為をしても、自分に恥じない状態になることだ。

『悦ばしき知識』



菊池 寛 (小説家・劇作家・実業家)

- 1888年12月26日(明治21年) 香川県高松市に菊池家の四男として生まれる。菊池家は江戸時代高松藩の儒学者の家柄だったが没落し、父は小学校の庶務係。
- 1903年(明治36年) 高松中学校に入学。英語が堪能で外国人教師と対等に英会話ができた。中3で高松に初めて図書館ができると、本を読みあさり2年で蔵書2万冊を読み切った。
- 1908年(明治41年) 東京高等師範学校に成績優秀で学費免除入学。教師になる気がなく授業欠席が多く除籍処分。
- 1910年(明治43年) 第一高等学校第1部乙類に入学。同期に芥川龍之介、久米正雄、井川恭(後の法学者恒藤恭)等がいた。
- 1916年7月(大正5年) 京都大学卒業。時事新報社会部記者となる。
- 1919年(大正8年) 中央公論に「恩讐の彼方に」を発表。
- 1920年 毎日新聞に連載した「真珠夫人」が大評判となり、人気作家となった。
- 1923年(大正12年)1月 若い作家のため「文藝春秋」を創刊。
- 1925年(大正14年) 文化学院文学部長就任。
- 1942年(昭和17年) 日本文学報国会議長。映画会社「大映」社長就任。
- 1947年(昭和22年) GHQから公職追放指令が下る。
- 1948年(昭和23年)3月6日 狭心症で急死。享年59歳。
- 【栄典】
- 1940年8月15日 紀元二千六百年祝典記念章受章。

オススメの *BOOK*



『日本史真髓』

作者 井沢 元彦 出版社 小学館新書

作者は元報道局社会部記者だった。80年に「猿丸幻視行」で第26回江戸川乱歩賞受賞。日本の歴史を紐解くに当たって、日本の歴史教育には宗教が欠落していて歴史を歪めているとの見方をしている。

宗教といっても日本の場合「怨霊信仰」とか「言霊信仰」などが影響を与えた。徳川幕府は「本能寺の変」に学習し、忠義を重んずる朱子学が武士階級に広がり政治に大きな影響を与えた。しかし、明治維新は天皇に忠義を尽くす戦いでもあった。

成年後見制度 元気なうちに!?



認知症になると銀行の窓口で手続きが出来なくなったり、キャッシュカードの暗証番号を忘れてお金が下ろせなくなったりします。

家族が本人の代わりに行うしかありませんが、近年、金融機関では本人以外が個人の資産を扱う事を認めず「やるなら成年後見人になって下さい」と言われます。

成年後見人は法定代理人として、本人に代わって資産の管理を行うことが認められています。家庭裁判所に申立てを行い任命してもらいますが、誰を成年後見人にするかは家庭裁判所が決めることで、現状では家族ではなく弁護士、司法書士、社会福祉士などの専門職から第三者後見人が任命されることが多いです。

後見制度には、本人が認知症になってしまってから申し立てる「法定後見制度」の他「任意後見制度」があります。任意後見は未だ認知症にならないうちに「私が認知症になった時には、この人に後見をお願いする」と決めておく制度です。公証役場に本人と後見人候補となる相手とともに赴き、公正証書で契約を交わします。任意後見には、家庭裁判所が決めた見知らぬ相手ではなく、家族でも専門家でも、本人が信頼する人に後見人になってもらえる利点があります。

ご家族にこんな異変を感じたら…

老親をこっそり判定認知症チェックリスト 10

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> 家の中と敷地内が「ゴミ屋敷」になっている |
| <input type="checkbox"/> 同じものを異常にたくさん買い集めている |
| <input type="checkbox"/> 季節感のない物を着ている |
| <input type="checkbox"/> 同じことを一日に何度も尋ねる |
| <input type="checkbox"/> 家の近所で道に迷う |
| <input type="checkbox"/> ゴルフ場で自分の打数を数えられない |
| <input type="checkbox"/> 簡単な計算を間違える |
| <input type="checkbox"/> お金の管理がずさんになる |
| <input type="checkbox"/> 化粧や身だしなみに気を使わなくなる |
| <input type="checkbox"/> 料理の味がまずくなる |

○1つ該当「軽度認知障害」の可能性

○2つ以上該当 専門医に相談を!

自分の認知機能もチェックしてみましょう。

親の言う事や行動が「どこかおかしい」と感じたら認知症に詳しい医師に診断してもらうことをお勧めします。

もし「軽度認知障害」と診断されても国立長寿医療研究センターによれば、生活習慣を改善するといった「介入」を行うことで46%の人は正常範囲の状態に戻ります。一方同じ研究では、生活習慣の改善などしない(放置)と、14%の人がそのまま認知症になったとされています。早めの発見と予防が大切です。



日本人の活躍は素晴らしい!!



【編集後記】

うれしい話題を二つ。

11月16日70年の歴史を誇るロン・ティボー・クレспан国際音楽コンクール(ピアノ部門)で、神戸市出身の三浦謙司さん(26)が優勝。愛知県出身の務川慧悟さん(26)が準優勝に輝いた。ピアノ部門優勝は2007年以来6人目。1位2位独占は初めての快挙。

11月17日野球の東京五輪予選を兼ねる国際大会「第2回プレミア12」で準決勝・決勝で韓国と対戦し、2戦とも韓国を下し日本代表(侍ジャパン)が初優勝を飾った。

文化・芸術部門とスポーツでの日本人活躍に対し惜しみない拍手を送りたい。